

## 「地域ぐるみ! 次へ!」 嬉しい全員での記念写真

先週は嬉しいイベントがあり、嬉しい集合写真ができました。時を忘れて語り合える仲間たち、それぞれ仕事も立場も年齢も違い抱えている問題も、その大きさも深さも違うでしょう。そんな仲間たちと素晴らしい時間を持つことができました。常日頃のコミュニケーション不足は反省すべきで、もっと大きな輪にすべきでしょう。



そのひとつ「地域ぐるみ! 次へ!」と題した「地域ぐるみ環境ISO研究会」設立20周年記念事業。まさに仲間との手作りの感動を味わったイベントでした。式典は12月13日15時から実質150分だけでしたが多くの人の準備によって成り立っていました。詳細な建前の報告はいつもより多めの今週発行の「ぐるみ通信」№349をご欄ください。多少重複することになりますが「いいだより」ならではの本音の報告をします。

参加者は身内だけ、研究会参加事業所の代表者と実務者、プラス「南信州いいむす21」取組事業所20周年記念事業を支援し支えてくれた人たちです。取材も含め100人ほどのイベントながら当日の会場設営、受付、司会、記録、それぞれが自分の担当を越え自発的に関わってくれて成立し実施できました。

研究会を外の目で検証してくれた早稲田大学大学院松岡教授は直前まで発表資料を手直しプロジェクトメンバー3人と一緒に参加してくれました。

月刊グローバルネット特集で研究会20周年を組んでくれた地球・人間環境フォーラム平野さんは中村研究員と参加。取材秘話で盛り上げてくれました。

## 「地域ぐるみ! 呑むぞ!」 式典慰労会も手作りで

20年の振り返り、100枚近いスライドをBGMでテンポよく映し出しました。飯田OIDE長姫高校生徒への「環バック」贈呈、「南信州いいむす21」の登録証の交付、リレートークは、次の世代へ「次へ!」が参加者全員に伝わったと感じました。牧野市長に続き代表としてずっと関わってきた萩本代表のトークは、研究会20年設立から今、これからをわかりやすく伝えるものでした。「ぐるみ通信」発信では私の名前まで登場し驚き、恐縮するばかりでした。

次第になく全くのサプライズとして会場の賛同を得て読み上げ贈られた事務局沢柳さんへの感謝状は熱く届きました。

萩本代表から関新代表へのバトンタッチ、固い握手、花束贈呈。新代表からの決意表明は用意したものを使わずに式典から感じた本心の心強いものでした。

最後にステージへ移動しての全員での集合写真撮影は式典の感動を共有し、ひとつになることができたと感じました。



記念式典の後、研究会参加事業所の実務者と遠来の仲間たちとで気楽な慰労会を行いました。この慰労会の設営、盛り上げる演出にも多くの仲間の準備・協力がしっかりありました。

式典も慰労会も規模や設営方法についてもっと違う考え方があったのかも知れません。しかし、できるだけ多くの参加者に響くような心のこもった実質的なイベントにと研究会の仲間と考えたことです。シャレのようなアイデアや企画を認めてくれ現実にもしてくれました。そんな仲間にとただただ感謝!

## 「宮澤芳重<sup>よし</sup>の会」 見知らぬ人が仲間となり



「宮澤芳重の会」今年最後の会合と懇親会を芳重さんの故郷・松川町で行いました。都合のつかない会員もいて参加は9人だけでしたが、今年1年間の成果と課題を確認し合い来年へと繋がる時間となりました。

芳重さんが見知らぬ私たちを結びつけ実行委員会を作り数々のイベントや記録集・DVD発行へと繋がりました。会員に共通するものは芳重さんへの純粋な思いです。それぞれが持つ知見を出し合い、会員個々の総和以上の大きな力になっているのを感じます。損得や利害関係のない仲間になつたのか、なっています。

前日打合せに行った松下会長宅で手作りのカレンダーを目にしました。早速、松下会長による12枚の絵とフリーの様式とでカレンダーを作り会合で自慢し配りました。みんなとても喜んでくれました。帰りJR駅に着くと事故で運転休止の放送、そこへ井口さんが来て飯田まで送っていただき助かりました。帰宅し改めてカレンダーを見てみると何を慌てたのか2018年!翌日、2017年に作り直し送りましたが2年分が出来てしまいました。



松川から見る山、やはり違います。ご意見ご感想は 小林敏昭 まで [kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)